

学 界 ニ ュ ー ス

お知らせ

昭和 63 年度日本数学会理事長

昭和 63 年度日本数学会理事長に杏林大学の伊藤清三教授が再選されました。

昭和 63 年度日本数学会賞春季賞

本年度日本数学会賞春季賞受賞者として、東京大学の加藤和也氏が選ばれました。受賞業績は「高次元類体論」です。年会で伊原康隆氏(東大理)による受賞者業績紹介が行われました。

1988 年度幾何学賞

本年度受賞者は、藤本坦孝氏(金沢大理)にきました。受賞の対象となった業績は極小曲面のガウス写像の除外点に関する永年の予想の完全な解決、です。

柏原正樹氏学士院賞受賞

1988 年 3 月 14 日に柏原正樹氏(京大数理解析研究所教授)は「代数解析の研究」に対して、昭和 63 年度の日本学士院賞を受賞されることが決まりました。授賞式は 6 月上旬、日本学士院で行なわれます。

伊藤清氏 ETH より名誉博士号

伊藤清氏は 1987 年 11 月 21 日に ETH(スイスの Eidgenössische Technische Hochschule, Zürich) より名誉博士号を授与されました。

昭和 63 年度秋季総合分科会と来年度年会開催地

本年度秋季総合分科会は、10 月 4 日(火)から 10 月 7 日(金)まで金沢大学で行われる予定です。

また来年度年会は昭和 64 年 4 月 1 日(土)から 4 月 4 日(火)まで日本大学理工学部で行われる予定です。

ICM について

1988 年が始まりいよいよ ICM 90 の開催は 2 年後となりました。現在は会議運営のための組織づくり、事業計画の概要を定めること等が着々と進んでおります。

1987 年 12 月には説明書(第 11 回国際数学連合総会、第 21 回国際数学者会議 ICM 90)が ICM 90 運営委員会によって作成されました。そして 4 月 1 日に日本学術会議から昭和 65 年度開催共同主催国際会議候補となった旨連絡がありました。

今号では予算案の骨子をご報告いたします。

予算案にもありますように、ICM 90 日本数学会員特別寄付金もかなりのウェイトがしめられております。

ICM 90 予算案の概略

	千円
収入合計	308,400
国費(希望額)	17,000
国際数学連合負担金	6,400
日本数学会負担金	10,000
参加費	120,000
日本数学会員特別寄付金	30,000
雑収入	7,000
寄付金	118,000
支出合計	308,400
会議準備費	82,390
国際数学連合総会経費	5,400
国際数学者会議経費	213,756
募金経費	6,854

去年の 11 月に会報とともに、この募金の趣意書が会員に配られました。その要点をもう一度記載いたします。

ICM 90 特別募金にご協力下さい

現在、ICM 90 の開催をめざして、各方面の努力が積み重ねられております。

いうまでもなく、最大の問題のひとつは開催のための資金準備ですが、有力な財界人を網羅する募金世話会会の発足が近くなされる見通しとなったのは明るい材料であります。

しかし、税法上の制約は厳しく、指定寄付の限度は登録会費総額をこえることができないため、国費をあわせても、登録会費と財界からのご寄付だけでは運営費用をカバーすることができないのが実状です。そこで、日本数学会会員の ICM 90 への募金に依存する部分がかかなり大きくならざるをえません。

本年 6 月の会報送付時の同封文書でもご説明いたしましたように、ICM の当事者は数学者ですから、まず日本数学会会員が先立って募金に協力をする必要があります。たとえ少額でもできるだけ多くの数学者が、まず率先して寄付をしないと、経済界の方々の篤志のご好意に応えることができないということも、どうかご理解していただきたくおもいます。

まことに恐縮に存じますが、ご協力をぜひ戴きたくお願い申し上げます。

昭和 62 年 10 月 30 日

伊藤清三(日本数学会理事長)

小平邦彦(ICM 90 運営委員会会長)

募 金 計 画

1. 名 称 ICM 90 日本数学会特別募金
2. 対 象 日本数学会会員および募金趣旨賛同者
3. 募 金 1口 5000円
(1人につき2口以上を期待するが分数口も可)
(20口以上寄付された方についてはICM 90の登録費が免除されます)
4. 目 標 額 3000万円以上
5. 募金期間 1987年から1990年8月まで
6. 募金団体 日本数学会
7. 募金方法 郵便振替にてご送金下さい。
郵便振替の振込先
郵便局名 下落郵便局
口座番号 東京 8-27526
加入者名 ICM 90 日本数学会特別募金係

なお加入者の料金負担になる郵便振替用紙が用意されておりますので、実務担当者までご請求下さい。

ICM 90 数学会特別募金
実務担当者レポート

(1988年4月19日現在)

(募金目標は3千万円以上ですが、3千万円として計算)
入金総計=12,076,000円
予約平均口数= 7 寄付平均口数= 6
寄付者人数 = 422 予約者人数 = 424

寄付平均額 =28,616円 標準偏差 =52,040円
予約総計=15,783,000円
(予約無しのご入金はすべて予約扱いにしました)
予約達成率(=予約総額/3千万円) 52.61%
達成率(=入金総額/予約総額) 76.51%
目標到達率(=入金総額/3千万円) 40.25%

入金額の分布(一口は5千円)	予約額の分布
0口以上 1口未満は 3数	予約 0数
1口以上 2口未満は 62数	予約 25数
2口以上 3口未満は 212数	予約 187数
3口以上 4口未満は 9数	予約 11数
4口以上 5口未満は 38数	予約 58数
5口以上 6口未満は 10数	予約 3数
6口以上 7口未満は 20数	予約 23数
7口以上 8口未満は 1数	予約 4数
8口以上 9口未満は 1数	予約 19数
10口以上 11口未満は 14数	予約 14数
12口以上 13口未満は 1数	予約 1数
20口以上 21口未満は 39数	予約 64数
26口以上 27口未満は 0数	予約 1数
30口以上 31口未満は 3数	予約 4数
40口以上 41口未満は 3数	予約 4数
50口以上 51口未満は 2数	予約 2数
60口以上 61口未満は 2数	予約 2数
100口以上 101口未満は 2数	予約 2数

実務担当者

〒171 豊島区目白1-5-1

学習院大学理学部数学教室

電話 03-986-0221 内線 445 飯高 茂

以上 ICM 90 広報委員会

京都大学数理解析研究所から、昭和63年度共同利用研究計画が、次のように決定された旨通知がありましたので、おしらせ致します。

共同利用研究計画(昭和63年度分)

	題 目	研究員または研究者(所属)	予 定 期 間
長期研究員	無限鏡映群の幾何 表現論とD加群 結び目の不変量 Conformal Field Theory and Conformal Gravity	円田 洋一(ICU) 松本 久義(東大理) 山田 修司(愛媛大理) 一ノ瀬祥一(静岡県立大)	63. 4. 1~63. 9. 30 63. 7. 1~63. 7. 31 63. 9. 7~63. 10. 7 63. 9. 26~63. 12. 24
短期研究員 (個別)	偏微分方程式論 Kac-Moody環に付随する群の構成	松澤 忠人(名大理) 須藤 清一(愛媛大理)	63. 6. 6~63. 6. 15 63. 7. 11~63. 7. 22
短期研究員 (共同)	鏡映群の幾何 ソフトウェア科学研究の在り方 二階算術の証明論 不連続群と3-多様体 実特異点、3次元多様体及びorbifoldの研究	斎藤 恭司(京大数研) 山田 尚男(東大理) 上江洲忠弘(東京理大理) 相馬 輝彦(九州工大工) 吉田 正章(九大理)	63. 4. 11~63. 4. 14 63. 5. 12~63. 5. 13 63. 5. 23~63. 5. 27 63. 5. 23~63. 5. 28 63. 6. 20~63. 6. 23